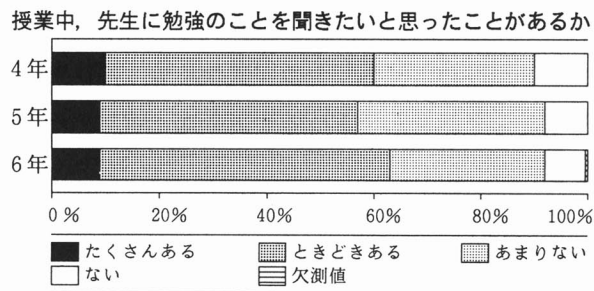


「質問すること」は、「問いかけ」の基本という意味で、大きな関連を持つものである。自分に理解できないことを知ろうとする意欲、発展する知識を求める知的好奇心、そして問題の本質を捉えようとする意志がなければ、本当に必要な良い質問をすることはできない。

下のグラフを見ていただきたい。これは今回の調査の中の「授業中先生に勉強のことを聞きたいと思ったことがあるか」という問いに対する答えである。



「たくさんある」と答えた児童は、4、5、6年のいずれも7%程度であり、「ときどきある」という児童と合わせても半分を超える程度である。また実際に質問する児童について調べると、さらに半減してしまう。

しかし、授業を活性化し、児童の思考力・判断力を高めるために、この「問い」の能力を鍛え、発問・応答のダイナミックスの中で自己表現させていくことは不可欠のこのように考えられるのである。



(2) 「学ぶことの喜び」

では、いったい、私たちは何を目標して授業の改善・充実を図り、児童の学ぼうとする意欲を育てようとするのか、それが2つめの視点である。

次の文章をお読みいただきたい。小学校4年、「算数」の時間でのI子の感想であるが、この中には私たちが目指そうとしているものが明確に表れている。

算数で面積のべんまう
をしました。それはたての長さ
と横の長さをかけると、1cmの
はいた長さと同じ数になるとい
うことをわたしがみつけながら
発表しました。それが「I子の法
則になりました。いっしょのう
ちに、自分の顔は笑っていました。
自分も今も思っています。法則
ができてうれしい。わたしの法
則ができてとてもうれしいと、
とても思っています。」

「面積」の学習のとき、I子は、たての長さ
と横の長さをかけると、その中にある1cm²の大きさ
の正方形の数と同じになることに気づいた。この
発見は、このときの授業の約束事として最初に発
見したI子の名を取り「I子の法則」と名付けら
れた。

「……………それが、I子の法則になってしま
いました。いっしょのうちに、自分の顔は笑って
いました。自分も今も思っています。法則ができて
うれしい。わたしの法則ができてとてもうれし
いと、とても思っています。」

一瞬のうちに笑ってしまっているほど、この
ときI子はうれしい経験をしたのである。しかも彼
女にとってそれは、何度も思いだし喜びをかみし
めるだけの価値のあることだった。

このI子の喜び、学ぶことの達成感と充実感、
そして自然に表現された幸福感こそ、「学ぶこと
の喜び」そのものに他ならない、と私たちは考
える。このような喜びに目覚めるとき、誰に言わ
れなくとも、自分自身の力で自分自身の喜びのた
めに学ぼうとする意欲が生まれるのではないだ
ろうか。そしてそのために、どのような指導が私
たちにのぞまれているのだろうか。